

吉野英理香「WINDOWS OF THE WORLD」

会期：2022年11月12日（土） - 12月10日（土）

会場：amanaTIGP

amanaTIGP では、11月12日（土）から12月10日（土）まで、吉野英理香展「WINDOWS OF THE WORLD」を開催いたします。amanaTIGP では4年ぶり4度目、2018年の第34回写真の町東川賞新人作家賞、第18回相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら「さがみはら写真新人奨励賞」受賞後初の個展となる本展では、2017年以降に撮影された作品群より17点を展示いたします。

ここ数年で急速に遷移した生活様式の中でも変わらぬ写真行為を続けてきた吉野は、この度発表する作品群のキーワードを、今の自分の表現や自分自身に近いスピリットを感じたという楽曲から引用しました。

*"The Windows of the World"*は、アメリカの歌手ディオヌ・ワーウィックが、作詞家ハル・デヴィッド、作曲家バート・バカラックのプロデュースにより1967年に発表した曲のタイトルです。

琴のような弦楽器とフィンガーシンバルを使い、窓に当たる雨粒の音をイメージした、しっとりとした奥行きのある曲に仕上げられています。

後年バカラックは自身のサウンドメイキングについて、「耳に優しいかもしれないが、簡単なものではない。そのため、このような「曖昧さ」は、「曖昧さ」そのものである」と語っています。

社会が複雑化し閉塞感が日々増していくなかで、改めて個人と世界のバランスの関係性について思いを巡らせたときに、この曲から感じるニュアンス・空気感を大切にしたいコンポジションに強く心を打たれました。

瞬きと共に消えてゆく瞬間を反映する鏡のなかでの語りは、社会へのアティチュードの差異によって本質的なことを問いかけているようでもあります。

ファインダーから見る光景は、私にとって世界を知り得るための窓です。

世界の窓と窓にプリズム色の光が満ち溢れることを望んでいます。

2022年9月 吉野英理香

ありふれた日常風景の転瞬をファインダー越しの純粋な眼差しをもって綿々と切り取ってきた吉野の写真群は、刹那的な瞬間を写真というメディアムによって時間を永遠に閉じ込めることで独特な重力を漂わせます。静けさと力強さの調和をそなえた作家作品特有の佇まいは、「The Windows of the World」が奏でるメッセージと吉野の共鳴によってより成熟されました。ストリートスナップの手法を汲みつつも、花の属名でもある自身の名が記されたページと共に鮮やかな花冠を映しこんだものや、鏡の中の景色を覗き込んだものなど、そこには吉野自身の意図が介入しています。その作品世界には、絶えず変化している現代に点在する隔たりの数々を想起させる一方で、世界の様々な出来事へ容易にアクセスできるようになり、自己と他者の境界線が曖昧になった社会で生きる私たちが作りあげていく、未来への麗らかな希望の旋律が響いているようです。

本展の開催に合わせ、下記の作品集が刊行されます。

【新刊情報】

吉野英理香『WINDOWS OF THE WORLD』

PAISLEY 刊 (2022 年)

販売価格：¥5,500- (税込)

ハードカバー、H19 x W29.7 cm、64 頁、図版 51 点

吉野英理香、上野修によるテキスト収録 (英語、日本語)

デザイン：服部一成

[詳細はこちら](#)

吉野英理香は 1970 年埼玉県本庄市生まれ。1989 年から写真の制作を開始し、1994 年に東京総合写真専門学校を卒業。在学中には写真家・鈴木清らの影響を受けながら制作を続け、90 年代半ば以降はいわゆるストリート・フォトグラファーとして、多数のモノクロ作品を発表する。2010 年からカラー作品の制作を開始。都心から関東北部で撮影される作品は、見る者をその独特の作品世界に引き込む新たな魅力を湛えている。主な個展に、「ICE Echo Wave」銀座ニコンサロン (東京、1995 年)、「Enoshima Zero Meter」Works H. (神奈川、1996 年)、「It's a New Day」銀座ニコンサロン (東京、1998 年)、「Max Is Making Wax」ビューイングルーム 四谷 ユミコ チバ アソシエイツ (東京、2001 年)、「Eleanor Rigby」横浜市民ギャラリーあざみ野 (神奈川、2008 年)、「JUST LIKE ON THE RADIO」Port Gallery T (大阪、2011 年)、「Digitalis」タカ・イシイギャラリー フォトグラファー/フィルム (東京、2012 年)、「NEROLI」タカ・イシイギャラリー フォトグラファー/フィルム (東京、2016 年)、「MARBLE」タカ・イシイギャラリー フォトグラファー/フィルム (東京、2018 年) など。主なグループ展に、「Eleven & Eleven: Korea Japan Contemporary Art 2002」省谷美術館 (ソウル、2002 年)、「Black Out: Contemporary Japanese Photography」ローマ日本文化会館 (ローマ、2002 年、以後パリ、東京に巡回)、「Nonchalant」4-F ギャラリー (ロサンゼルス、2004 年)、「My Flower」タカ・イシイギャラリー フォトグラファー/フィルム (東京、2021 年) など。2018 年に第 34 回写真の町東川賞新人作家賞および第 18 回相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら さがみはら写真新人奨励賞受賞。東京都写真美術館に作品が収蔵されている。

是非、貴誌・貴社にて御紹介くださいますようよろしくお願いいたします。

尚、掲載用写真の貸出など、御質問がございましたら下記までお問い合わせください。

amanaTIGP 展覧会担当：上松エリサ プレス担当：増田絵梨花

〒106-0032 東京都港区六本木 5-17-1 AXIS ビル 2F

tel: +81 (0) 3 5575 5004 fax: +81 (0) 3 557 55016

e-mail: atp@amanatigp.com website: <https://www.takaishiigallery.com>

営業時間：12:00-19:00 定休日：日・月・祝祭日



吉野英理香「Untitled」

2018年/2022年、Cプリント、20 x 30 cm

© Erika Yoshino



吉野英理香「Untitled」

2018年/2022年、Cプリント、20 x 30 cm

© Erika Yoshino